

白神の絆

令和7年1月31日発行 No.220（1月号）



【発行】林野庁 東北森林管理局

住所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野 70-82

津軽白神森林生態系保全センター

TEL：0173(72)2931

令和6年度 第2回白神山地世界遺産地域巡視委員会議を開催しました

令和6年12月3日（火）西目屋村中央公民館で令和6年度第2回白神山地世界遺産地域巡視委員会議が行われました。

まず、山根計画保全部長より世界遺産地域連絡会議事務局を代表して今年度の巡視活動に対しての感謝の挨拶から始まった会議は、次第に沿って令和6年度の環境省、青森県、鰺ヶ沢町、深浦町、西目屋村の事業実績を報告があり、その後、巡視員の巡視状況、合同パトロールの実施状況、白神山地核心地域への入山状況など順次報告がされました。

そして今回の初めての試みとして巡視委員を2班に分けてのグループ討議が行われました。この様な形で行われるのは今回が初めてなので議論が積極的に進むか心配しましたが、心配とは裏腹に巡視員同士での議論はなかなか盛り上がり、多様なご意見を頂きました。

まず1班からは巡視員同士が会うことが無い、巡視員として勉強の機会が欲しい。白神山地地域へのアクセス道路状況の情報が欲しいというご意見を頂き、2班からは軽装で山に入る人が増えた、令和6年は違法行為が増えた等のご意見を頂きました。

頂いたご意見からは、巡視員数の減少と令和4年度の大雨災害による白神ラインの通行止めのため、白神山地地域へのアクセスが難しくなったことによる巡視活動の減少が感じられました。

また軽装で入山してくる人が増加しているとの意見もありました。このことから白神ライン等現在通行止めとなっている道路が通行可能になると、観光客が白神山地地域



山根計画保全部長からの挨拶



グループ討議での発表の様子

の奥地にも軽装のまま入山する方々が増えると心配されます。

このため巡視員を増やしたいと考えているので、自薦・他薦構いませんので巡視員になってみたい方、お待ちしております。

最後になります。巡視委員会議に出席頂いた巡視員はじめ関係機関の方々には多様な意見又は報告等有難うございました。

来年度もご協力をよろしくお願いいたします。

第 24 回白神山地世界遺産地域科学委員会が開催されました

令和 6 年 12 月 23 日（月）、弘前市弘前文化センターにおいて第 24 回白神山地世界遺産地域科学委員会が開催されました。

この日弘前市周辺は平年の 4 倍を超える積雪になるほどの大雪に見舞われ、JR 奥羽本線の大館駅（秋田県）―津軽新城駅（青森市）間が終日運休になるなど、交通機関が大幅に乱れたことにより、出席予定の委員や関係者の一部が急遽 WEB 参加となる中、予定の 30 分遅れで会議がはじまりました。

出席者は、研究者や大学教授などの学識経験者で構成される委員 8 名と環境省東北地方環境事務所、東北森林管理局、青森県、秋田県、西目屋村、鱒ヶ沢町、深浦町、藤里町などの関係機関 25 名、傍聴者を含めると合計約 40 名でした。

開会にあたり環境省東北地方環境事務所中島所長より挨拶があり、続いて各委員の紹介を行った後、中静委員長の進行により議事に入りました。

会議では、保全管理やモニタリング計画に基づく調査の実施状況、ニホンジカへの対応、入山利用への対応、松くい虫被害及びナラ枯れ被害等について報告、意見交換が行われました。

この中で、ニホンジカの越冬場所について、東北芸術工科大学名誉教授田口委員から、「彼らは臭いとか音で周りを警戒しているので、そういう情報が集まるのが尾根上なので、越冬地はだいたい尾根の上。それからもう一つは、尾根の中でも風が弱くて、日

当たりがいいところ、そういう場所を的確に把握すること。」というお話があり、我々が痕跡調査などを進める上でとても参考になるご助言をいただきました。

この白神山地世界遺産地域科学委員会は、白神山地の世界自然遺産としての価値を将来にわたって保全するため、白神山地の自然状態を把握し、白神山地世界遺産地域連絡会議に対して科学的なデータに基づいた順応的管理に必要な助言を行うことを目的として設置されています。

当センターでは、今後も引き続き関係機関と連携して白神山地世界遺産地域の保全管理に取り組んでいきたいと思っております。



会議冒頭の様子